

〔赤嶺雅和議員 登壇〕

○9番 赤嶺雅和君 さっそく、一般質問をしてまいります。沖縄県は、前々から長寿日本一と言われていたのですが、近年は日本一の座を降りて十位以下ですか、健康問題がかなり発生しております。そこで特定健診の受診率向上のためにということで、(1)本町の特定健診の受診率はどれほどか。(2)受診率を上げるための対策はあるのか。(3)受診率を上げることによってどのような効果があるか。また、町民の健康増進にはどのような方法があるか。

2. 子どもの貧困問題の状況はということで、(1)県の調査では県内における子どもの貧困率が約30パーセントで、全国平均の約2倍であるという。貧困の大きな原因は何か。また、本町の子どもの貧困はどのような状況か。(2)子どもの貧困は、親の貧困にあると思うがどうか。(3)子どもの貧困に対する本町の対策はあるか。ご答弁をお願いします。

○議長 宮城清政君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の特定健診受診率向上のために(1)についてお答えします。平成27年度の受診率は、48パーセントとなっています。(2)についてお答えします。仕事や生活の形態に合わせて受診ができるように、ナイト健診や日曜健診を行っております。また、未受診者に対して、特定健診受診率向上対策指導員による電話や戸別訪問、広報車によるお知らせ、さらには各字・自治会の協力員と連携して受診勧奨に取り組んでおります。(3)についてお答えします。特定健診は、自覚症状がないとされる生活習慣病の発症や重症化の予防を目的に行っており、毎年の受診で自分自身の、体の状態や変化が分かり、生活習慣の改善(食生活や適度な運動など)の必要性に気付くことができます。受診率が上がることで早期発見、早期治療が可能となり、結果的に医療費抑制につながるものと捉えております。受診後の結果は、町の保健師、管理栄養士が訪問などにより個別に説明をしており、以上のあるなしにかかわらず、一人一人の健康維持や重症化にならない指導を行っております。また、健康増進にかかる事業としては、がん検診、骨粗しょう症検診、はり、きゅう、あん摩、マッサージの施術費用の補助を行っております。

2点目の子どもの貧困問題の状況は(1)についてお答えします。県が公表した子どもの貧困率は29.9パーセントです。その背景として県が示したのは、産業振興の遅れや失業率が高水準で推移したこと、一人当たりの県民所得が全国最下位であること、ひとり親世帯の出現率が高いことなどの理由であります。本町も同様の理由であると思われませんが、町独自の子どもの貧困率を算出することはできません。(2)についてお答えします。子どもの貧困については、不適切な養育環境や虐待、社会的な孤立などが経済的な貧困と結

びついて派生すると考えられていて、親の貧困と密接に係わっていると思います。(3)についてお答えします。本町では、子どもの貧困が次の世代に連鎖しないように、本年度からこども課に子ども元気支援補助員を2人配置するとともに、支援を必要とする子どもの居場所として、中学校区に1つずつ計2カ所の子ども元気ROOMを設置して対応しております。以上です。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。では、再質問をしていきます。特定健診の受診率は48パーセントとのことですが、年代別に受診率が分かるのであれば教えてください。

○議長 宮城清政君 国保年金課長。

○国保年金課長 町田美貴さん お答えいたします。受診率は、年代別までまだ分析しておりませんが、特定健診の受診年齢が40歳から65歳未満になっております。集団健診、個別検診もありますが、その年代以外の方に対する受診も行っているのですけれども、それぞれ年代別の数値は持っていません。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 年代別のデータは取っていないということですが、それでは40歳から64歳までは特定健診の数値を取っていて、65歳以上はまた別の健診をされているようですがそれについては分かりますか。40歳から64歳までが48パーセント、65歳以上がこれに含まれていませんか。

○議長 宮城清政君 暫時休憩します。

休憩（午前11時21分）

再開（午前11時22分）

○議長 宮城清政君 再開します。国保年金課長。

○国保年金課長 町田美貴さん 特定健診のこの率は、国への報告でもございまして、その年齢の範囲の率は出しているのですけれども、南風原町の住民健診を受けられた皆さんの例えば65歳以上75歳未満、また75歳以上は長寿健診といって後期高齢者医療で行う健診も総合的に健診の中で捉えてはいるのですけれども、それぞれ年齢を分けての受診率は持っていません。こちらの数字も出していきたく思っております。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 分かりました。ありがとうございます。通告はしていなかったのですが、あとで40歳から64歳までの特定健診と65歳から74歳までの前期高齢者、75歳以上の後期高齢者の受診率も分かるようでしたらそのデータをください。

次に、今は年代別をお聞きしましたが、特定健診に変わってから数年がたっています。さらに受診率向上のための皆さんの努力には感服いたします。それで、受診率の向上はどのように推移しているか分かりますか。

○議長 宮城清政君 国保年金課長。

○国保年金課長 町田美貴さん お答えいたします。推移の年代なのですけれども、昨年度がこの48パーセントで、その前の平成26年度46.9パーセント、平成25年度が48.1パーセント、平成24年度が44.9パーセント、平成23年度が47.5パーセントとなっております。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 年々、受診率は向上していますね。ありがとうございました。

では、特定健診は、自覚症状がないとされる生活習慣病発症、重症化予防の目的で行っているとなっておりますが、早期治療・早期発見が可能となり、結果的には医療費の抑制につながるものと思われるともあります。医療費抑制の変化は分かりますか。受診率のデータはもらいましたが、医療費の推移も分かりますか。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前11時25分）

再開（午前11時26分）

○議長 宮城清政君 再開します。国保年金課長。

○国保年金課長 町田美貴さん 一人当たりの医療費が、平成23年度は27万7,309円、平成24年度が28万5,692円、平成25年度が30万3,137円、平成26年度が30万8,331円、平成27年度が32万1,279円となっております。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。医療費の面から見ると減っているように思われませんか。これには様々な理由があると思うのですが、特定健診を受診したからといって医療費を削減したことにならないと思いますが、健康志向と言うのですか、皆さんが健康にだいたい気を遣うようになったから医療費は上がってきたのではないかと判断されます。これに懲りずに、特に保健師の皆さんは特定健診のデータをもって家庭訪問をされて指導もされているようです。日夜努力されていることに感謝申し上げます。このように、南風原町民の健康管理には皆さんのがんばりが影響してきますので、なお一層頑張っていたきたいと思います。これで特定健診受診率向上については終わります。

次に、2番目の子どもの貧困問題について問います。県が公表した子どもの貧困率は29.9パーセントで、背景としては産業振興の遅れや失業率が高水準で推移、一人当たりの県民所得が全国最下位であること等が考えられるとなっておりますが、町独自の子どもの貧困率は算出できないということでもあります。そこで伺いますが、ひとり親世帯が多いとか県民所得が最下位ということは、沖縄は全国と違って先の大戦で地上戦があったことで県民の生命にかなりの影響が出ていることからもあるのではないかと考えられます。そういうことで県民所得も全国一低いですし、ひとり親世帯もだいたい多いようです。そういう状況で南風原町の貧困の対策はあるかどうか問います。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 答えいたします。本町においては、内閣府の補助事業を活用し貧困の連鎖を打破していこうということで事業に取り組んでおります。民生部においては、支援員を2名、こども課に配置しまして支援の必要な子どもたちの支援につなげていく役割を担っております。それから、支援が必要な子どもたちを見守り、その子どもたちの居場所づくりということで中学校区に1つずつの2カ所に設置し、その運営が始まっております。その他としましては、教育部での就学支援の援助など、それも貧困支援の一つになるかと思えます。さらに、一番大きな部分では来年1月から始まります子ども医療費の現物給付に関しましては、医療の必要でもこれまではどうしても経済的な理由などで受診を控えていた子どもたちが、窓口で払わなければいけないお金の心配をすることなく必要な医療を受けることができるようになります。これも本町の貧困対策としての取組の大きな事業の一つだと思います。以上です。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。南風原町の子どもの貧困対策として支援員を配置、元気ROOMの設置、あるいは医療費の支援ですね。特に子ども医療費については、南風原町は全国からも注目されていると思いますので非常に感謝しております。

それでは、通告書にはないのですが、学習の支援について伺います。今、南風原町ではこども食堂、あるいは寺子屋的な公民館を利用した学習指導等もやっていると思うのですが、それが町内に何カ所あるか教えていただけますか。分かる範囲でいいです。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 今現在、地域で取り組んでいるのは新川地区ということであり
ます。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。こども食堂は、新川で最近オープンしまし
たね。新聞で見ました。ところで、学習支援については地域の公民館で寺子屋的にやっ
ている所はないのですか。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。地域の公民館等を活用して寺子屋的な学習支援
ですが、まだやっている所を把握しておりません。ただ、今後、社協と連携しながらな
のですが、そういう寺子屋的な学習支援の拠点をまず2カ所で取り組んでいこうと予定はし
ております。

○議長 宮城清政君 教育部長。

○教育部長 宮平 暢君 教育委員会としましては、貧困ということではなくて不登校児
童生徒に対して、ちむぐくる館において民生委員等を中心に中学三年生をメインに学習支
援を行っております。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。学習支援の件で、地域で公民館を利用した
寺子屋的なものはまだ実績がないとのことですが、私の地域の公民館で過去に大学
生が率先して小中学生を集めて受験対策を行ったことがあります。これを参考にして神里
でもできるのではないかと一部の人間から話が出ていますので、今後も進めていきたい
と思います。南風原町でも昔から宮平が寺子屋の発祥の地となっていますので、この
公民館を利用した寺子屋的な学習支援、さらには居場所づくりにもなると思いますので、

できるだけそういうことが行われるよう皆さんからも声掛け等やって欲しいと思います。

子どもの貧困に対する支援はだいぶあるようですが、親の貧困が非常に厳しい、所得が低くて生活がかなり厳しい等もありますので、親の貧困に対する本町の支援にはどういうものがあるのかお伺いします。

○議長 宮城清政君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 制度的な部分からしますと、ひとり親家庭に関しましては児童扶養手当等がございます。それから最終的なセーフティネットでは生活保護がございますが、そういった支援が必要な場合にはもちろんしっかり支援につなげております。町独自では、ひとり親家庭の子どもたちが学童に通う場合の利用料補助あるいは認可外保育園に通う場合の補助、保育料の減免等もございます。さらに生活困窮ということではいろいろな相談事もあります。そういう方には南部パーソナルサポートセンターとも連携し就労支援につなげたり、そういったかたちで生活困窮の方々の自立支援、生活支援の取組がございます。

○議長 宮城清政君 9番 赤嶺雅和議員。

○9番 赤嶺雅和君 ありがとうございます。親の支援については、生活保護から就労支援等多岐にわたって支援があるようですが、南風原町は福祉のまちをうたっていますので、もっともっととは言いませんが今まで以上に充実させていただくようがんばっていただきたいと思います。時間は短いです、これで私の質問を終わります。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前11時40分）

再開（午前11時40分）

○議長 宮城清政君 再開します。ただいま、国保年金課長より訂正したい旨の申出がありますのでこれを許します。国保年金課長。

○国保年金課長 町田美貴さん 申し訳ありません。先ほど、特定健診の受診年齢に誤りがございましたので訂正させていただきます。特定健診は、40歳から75歳未満の74歳までとなりますので、長寿健診受診者はこれからお出しいたしますので訂正させていただきます。

○議長 宮城清政君 休憩します。

休憩（午前11時41分）

再開（午後1時00分）

○議長 宮城清政君 再開します。午前中の赤嶺雅和議員の質問に対して、執行部から訂正があるとのことですので、それを許します。民生部長。

○民生部長 知念 功君 大変申し訳ございません。先ほど、雅和議員の町内でこども食堂の開催はあるかという問いに対して新川区と答弁いたしましたが、訂正して再答弁いたします。町内でこども食堂の開設はございません。新川区の取組は、区民食堂という取組でございます。新川区の取組は、誰でも参加できる取組で、地域住民同士が顔の見える環境づくりを作り上げていく、地域の福祉力向上につなげていくという取組でございまして、貧困対策で言われているこども食堂とは違った形式の取組でございます。以上、訂正してお詫び申し上げます。